



「教育の情報化」推進計画

(輪之内町第12次情報教育推進事業) R5年度～R7年度

輪之内町学校教育の情報化プラン (2019～2023) 基本目標

全ての教員が、ICT機器を従来型の学習形態(板書・ノート・説明・体験活動等)と融合させて活用するとともに、情報活用能力を段階的に指導し、学習の基盤となる資質・能力を育成します。また、子どもたちが仲間と協働しながら主体的・対話的で深い学びができる授業を創造するための指導改善に努め、子どもたちに「生きる力」につながる確かな学力を育む教育を実現します。

テーマ

「協働的な学び」と「個別最適な学び」の実現を目指した日常的な1人1台端末の活用

令和5年度

令和6年度

令和7年度

情報活用能力の育成

〔輪之内町の現状〕
・ICTを活用した情報の収集や整理・編集のスキルを身に付ける取組について充実させる必要がある。
・先行したプログラミング教育の取組により、全校での授業実践ができ、児童のプログラミングの思考が育成された。
・時勢に沿うデジタルシチズンシップの育成が必要である。
【目標】
○Society5.0(超スマート社会)に求められる、基本的なICT活用スキル等を身に付けている。
○児童生徒が、持続可能な社会の構築を実現するための、プログラミング的思考等の問題解決能力を身に付けている。
○児童生徒が、いつの時代にも誠実に情報活用を行うことができるデジタルシチズンシップに関する価値判断力を身に付けている。

①情報活用の実践力の育成

・「調べる・まとめる・つたえる」

指導すべき内容の整理

事例の収集

事例の収集、追試と修正

②プログラミング教育の実践・検証

・指導計画に基づいた実践

教職員研修・各校での実践と検証

小学校教科書採択に伴う指導計画の見直し

各校での実践と検証

③デジタルシチズンシップの育成

・発達の段階に応じた指導

デジタル教材を有効活用しての実践(既存の教材・国や県作成の教材等)事例の整理→指導計画の見直し

各校での実践と検証

ICTを活用した授業改善

〔輪之内町の現状〕
・教員が授業でタブレット等ICT機器を活用すると、児童生徒の学力向上に効果があることがわかった。
・協働学習支援ツールを活用して、自分の考えを記述したり、仲間に考えを伝えたりする場面を増やす必要がある。
・タブレットを家庭学習でも活用することで、学力の定着を図っている。
【目標】
○教員が各教科の授業について、「1人1台端末」を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行うことで、自己の資質・能力を向上させている。
○「1人1台端末」を活用し、学習指導や家庭学習、評価に関わるデータを適切に収集、管理、活用することで、指導と評価の一体化が達成できている。

①ICTを活用した授業実践

・協働的な学習、個別最適化された学習

協働学習支援ツールを活用する実践の継続 ICT活用部会での活用法の交流 教職員研修会の実施

事例の収集と整理

②ICTを活用した家庭学習

・オンライン授業、デジタルドリル

各校での実践・活用法の交流

各校での実践・検証

③ICTを活用した効果的な評価

・「Google Workspace for Education」の活用

各校での実践と検証・教職員研修会の実施

校務の情報化

〔輪之内町の現状〕
・全小中学校で校務支援システム・グループウェアの運用をしている。
・校務の効率化を図ったことにより、子どもと向き合う時間が増えた。
【目標】
○情報漏洩や災害に強く、活用しやすい情報セキュリティの環境システムの構築がされている。
○教員のワーク・ライフバランスが改善され、心的ゆとりをもって子どもと向き合う時間が確保されている。

①「働き方改革」につながるICTを活用した校務のスリム化

・校務支援システム、グループウェア等

県統一の統合型校務支援システムへの移行

統合型校務支援システムへの効果的な運用

※定例教育委員会において達成状況のチェックと計画の見直し(PDCA)

※実践と研究を繰り返すことで「だれもが使えるICT」を目指す。(即時のHPアップ等で情報共有)

情報化を支える環境等

①「1人1台端末」環境整備

- ・タブレット端末の整備
- ・ネットワークの構築

②教職員研修

- ・ソフトウェアの効果的な活用方法
- ・実践につながる体験を通じた研修

③ICT支援員

- ・授業における支援
- ・最新の活用方法の研究と支援

